

3学期の始まりにあたって

校長 森 武晴

今年は、令和7年は「きのと・み」へび年です。へびは、昔から再生や永遠の象徴とされています。種類によって異なりますが、月に1回、成熟すると年に2～3回、古い皮を脱ぎ捨てます（脱皮）。このように古い皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わることから、へび年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年であるといわれています。加えて、60年に一度の「きのと・み」である令和7年は、努力を重ね物事を安定させていくという年だそうです。

最近のへび年に何があったかあげてみると、12年前の平成25年・・・富士山が世界遺産に登録された。2020年東京オリンピックの開催が決まった。24年前の平成13年・・・社会の構造改革をすすめた小泉内閣が発足した。天皇陛下長女愛子さまが誕生された。36年前の平成元年・・・64年続いた昭和から平成と時代が変わった。消費税が始まった。ベルリンの壁崩壊・中国で天安門事件と民主化が進んだ。こう見てみると、長年の努力が実った年、新しい流れが始まった年ということができると思います。

4月から新生活が始まる3年生の皆さん、また、あと3か月程ありますが、3か月後には新学年となる2年生、1年生の皆さん。さらに、成長していくために、努力が実っていくために、古い殻（マイナスな自分、マイナスな意識・行動）を脱ぎ捨て、しっかりとしたものを掴めるよう努力していきましょう。

先日、新年3日に島原文化会館で行われた「ふるさとしまばら成人の集い」の開会のあいさつで集いの実行委員長の方が、「思うだけでは夢は現実にならない。一歩ずつ踏み出し、仲間と共に苦悩や困難を乗り越えていこう」と想いを述べられていました。行動が伴わなければ、何も成長はしません。努力という行動をもって成長し、夢を現実のものにしていってください。

そして、新年の始まりにあたり皆さんにうれしいお知らせ・報告があります。長年に亘って地域と密着した、地域とつながった職業教育、進路指導をおこなってきたことが評価され、この度、キャリア教育優良校として、本校が文部科学大臣賞を受賞しました。これは、日頃から皆さんが、そして、皆さんの先輩方が、春の市、スクールマーケット、農業祭、地域企業見学、職場体験、インターンシップ、地域保育園、小中学校、特別支援学校との交流学習などで、地域と深く関わり、学習を積み重ねていった結果です。この受賞を機に、今後も地域を意識し、地域に島原に無くてはならない求められる学校を目指して、生徒・職員、想いを一つにして取り組んでいきましょう。

今年度、常に皆さんに言い続けてきた「感じて、感動、感謝」。やるべきことを感じて地域の期待を感じて、先輩方から引き継いできた良い伝統を感じて、感動・行動し、多くの人から感謝されるよう、そして、多くの人に感謝できるよう、新しい年、へび年、「きのと・み」令和7年を素晴らしいものとしてください。

令和7年1月（3学期始業式校長講話抜粋）